

飛鳥Ⅲ乗船レポート(1) 船内編

個人会員 岡島 純

10月4日(土)Kobe Debut Cruise鹿児島・長崎・上五島7日間のクルーズ。
ちょうど台風22号が発生し、予定通りのコースで実施されるか心配した船出であった。
7月20日就航してから14回目となるクルーズで飛鳥Ⅱ以上のサービスなどがあると
期待したが、残念ながら全くそうではなかった。その理由は最終回で述べる。



神戸中央突堤旅客ターミナルからデッキ5乗船口から入るとフォーシーズンダイニングルーム出入口があり壁面に初代飛鳥の階段壁面を描いた田村 能里子氏の作品を見ることができる。エレベーターホールを抜けると3層吹き抜けのアスカプラザがあり、人間国宝室瀬和美氏による漆芸作品がそびえている。

ソファはプラザや各所に多くあり、作品を眺めて寛ぐのに良い場所である。

数多くのアート作品が至るところに飾られており、船内歩きながら鑑賞できる。

しかしながら、作者と作品名だけが表示され詳しい説明がない。QRコードで解説が読めるようにすれば良い。アトリウムがあるデッキ5には小さなレセプション、アンカーバー、ジュエリーショップなどがある。

デッキ6はプロムナードデッキで1周約400mあり、朝の散歩やジョギングができる。

船首側はリュミエールシアター、ルーレット、ブラックジャックなどができるカジノがある。

カジノは専門会社が営業しているので、チップの絵柄に飛鳥マークはなかった。

中央部にギャラリーカフェとして両舷にソファが設置されており、千住博氏の作品が飾られている。

船尾方向には予約が必要なレストランが3か所ある。

デッキ7は中央部にブックカフェがあり自由にソフトドリンクを飲みながら読書できるスペースが設けられており、船では初めてフラワーショップが開設されている。

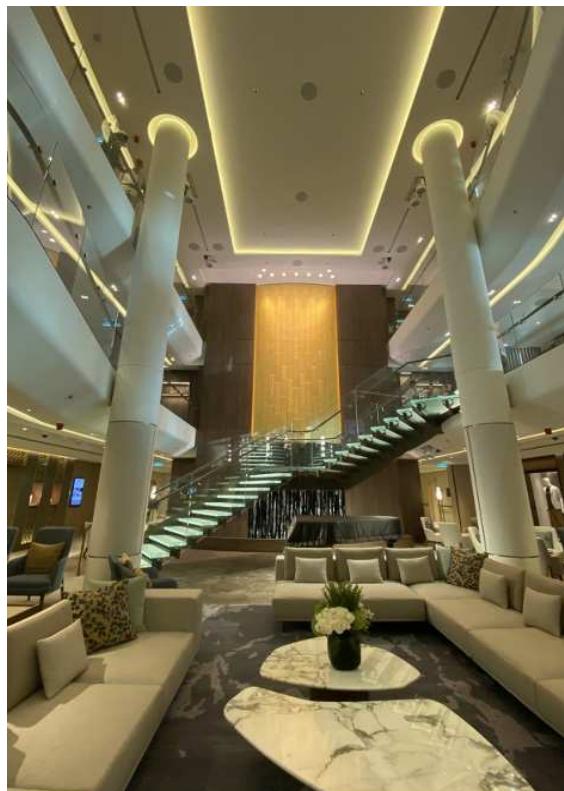
キャビンは7, 8, 9, 10デッキにあり、11デッキは一部キャビンがあるが、船首側にビスタラウンジ、ヨガなどできるスタジオA3、アルバトロスプールがあり、船尾側にブッフェスタイルレストランのエムズガーデンと夕食時の予約が必要なパペンブルググリルレストランがある。

日本郵船の客船の歴史を紹介するコーナーとしてヒストリアエリアがあり、複製品であるがポスターや、メニュー、当時使用されていた食器、初代飛鳥のタイムベルなどが展示されており、当時の華やかな客船時代を思いを馳せることができる場所である。初代飛鳥のラウンジに飾っていた「樺原丸」の絵画が戻ってきていた。

デッキ12に建造時に船首の一番眺めが良いところに大浴場を造るとはクレイジーと言われたグランドバスがある。浴槽に仕切りがあるため、複数では入浴しにくい感じを受ける。展望サウナも併設されている。また、露天風呂は両舷にあるが、停泊中はもちろんではあるが、瀬戸内海航行中も一時的に利用制約があった。飛鳥Ⅱのように吹き曝しの所を歩いていく必要はない。

予約制でゴルフシミュレーターのザ・リンクスがあり、ビューティーサロンとスポーツジムのアスカウェルネスクラブがある。13デッキはシャッフルボードゲームができる場所になっている。

全体的に雰囲気はスタイリッシュモダンな感じであった。



アスカプラザ



アンカーバー



ルミエールシアター



ビスタラウンジ



アスカウエルネスセンター
フィットネスセンター



カジノエンティ



ギャラリーカフェ



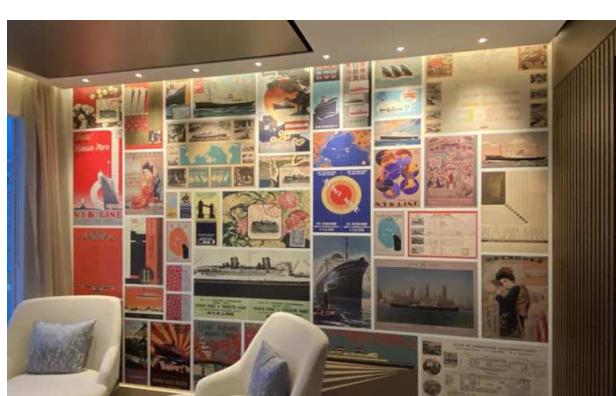
ギャラリーカフェの千住博氏の
ウォーターフォール・オン・カラーズ



721ブックス & カフェ



721ブックス & カフェ横にある
フリーソフトリンクコーナー



ヒストリアエリア



櫻原丸
初代飛鳥のラウンジにあった絵画



飛鳥Ⅲレプリカタイムベル